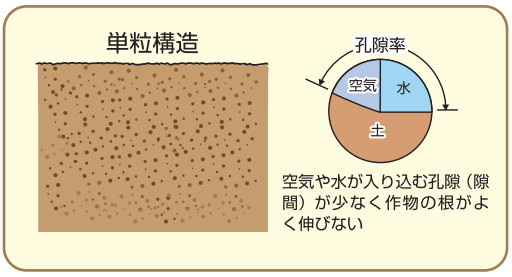
土づくりのポイント　冬の間に掘り起こしてふっくらとした土に

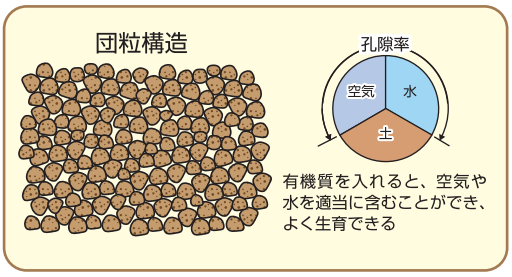
これから本格的な冬を迎え、家庭菜園は越冬野菜だけとなり、冬の休閑期に入り、空き畑が多くなります。この機会にしっかりと土作りをし、来年の春に向けて準備をしましょう。

1. 良い土の条件

野菜の根が健全に伸びるためには土の **①水はけと通気性が良いこと ②水持ち（保水力）が良いこと** が重要な条件となります。

土は粘土や砂で構成されています。粘土粒子は団粒構造と単粒構造があり、団粒構造にすると孔隙（こうげき）率が高く、空気や水を適度に含み根が良く伸びますが、その状態も数年野菜を作り続けるとやせて単粒構造となり、孔隙が少なくなり根があまり伸びなくなってしまいます。





2. 土のつくり方

①前作の残りかすや病害虫の被害株・残根などをきれいに取り除く。
②堆肥などの粗大有機物を全体にばらまいてから耕運する。深耕する場合には、先に畑を起こしてから次の耕運時に堆肥などの粗大有機物を施すのが良法。
③起こした土はなるべく表面に凹凸があるままにしておき、寒気に触れる面を大きくしておく。

また、土壌の酸性度も冬の間に調べてpH6.0～6.5程度に調整しておくことが大切です。酸性を改良する苦土石灰の施用量は、砂質あるいは腐植の少ない土壌では少なくてよく、黒ボク土では多くを要するので施用量を誤らないようにすることが大切です。

プランターの土の再利用法

土を効率良く再利用する場合は、殺菌、殺虫が必須ですが、連作障害さえ気を付ければ土壌殺菌の必要性はなく、ふるい等で前作の残りかすをきちんと取り減った分だけ補います。さらに粗大有機物や堆肥などをすき込み団粒構造の崩れた働きを補いましょう。

土の殺菌を行う場合は、太陽熱による消毒が有効です。

① 消毒する土をふるいにかけ前作の残りかすや異物を取り除く。
② ビニール袋に土を入れ水で湿らす。
③ コンクリートの上で日光に十分当て、熱消毒をします。必ず袋を密閉し、2、3日位日に当ててください。

栽培について

営農指導員、最寄りの購買店舗職員にお尋ねください。
種・肥料・農薬などの生産資材のお買い求めは最寄りのJA購買店舗をご利用ください。